

## 倉橋賞を受賞

して



松平立行

倉橋賞をいただくという事！ すなわち倉橋惣三先生にあやかり、山下俊郎氏はじめ平素保育学会のためにお忙しい中を尽して下さる委員の諸氏、ひいては学会参加の諸氏に祝福されながら倉橋賞をいただく事は、研究者としてこの上もなく恵まれた事だと考え、昨年度の学会では受賞された四日市の先生に、惜しみなく拍手を贈ったものでした。今年度、その倉橋賞を私がいた

だいたという事に対し、余りにも幸せに過ぎ、加えて自分の研究を認めていただいた嬉しさと共に、倉橋賞受賞者として恥ずかしくないように、今後さらに励むべきだと自覚しております。

授賞のお知らせを受けたのは当日その三十分程前だったと思います。―私如き者が……と抵抗を感じ、異議らしいものを申しかけますと

「もう決まったのだ。きまってしまったのだ。」

と小川正通氏（主任教授）の鶴の一声で私は観念してしまいました。

授賞式に際して日本保育学会会長の山下氏から、身に余るおこぼを賜り、加えて微に入り細にわたつての選考のいきさつの御説明を伺うに及んで、前述の私を感じました抵抗らしいものは全く消え去り、賞をいただきますに上ります時は、自分の不十分な研究を恥じる以外は、晴れ晴れと且つ心から感謝しつつ会長先生の前へ歩を運ばさせ

ていただきました。

この度受賞しました「音感教育の研究」は、音楽学会への発表を要望されたものですが、『かような幸せを私がいただいて良いのだろうか』と未だに自問している状態です。

音楽部門では、どんなに良い研究をしてもなかなか認めていただくという事はむつかしいと過去の私の体験から思っております。即ち、音楽専門家には学問的処理がわからず、学者には―音楽が苦手だ―という方が多いのではないのでしょうか。浅越な事を書きましたが、一般大衆の方が却って良い本を書くと思えてくれますから……日本保育学会で、音楽に関する研究を認めていただいたという事は、私個人としてだけでなくいろいろな点でうれしく、山下氏はじめ日本保育学会チーフの諸先生、さらにはかかる立派な先生方を選出された会員の皆様に、ますます強く尊敬と感謝の念を強くしました。